



段ボール3枚と毛布で寝床づくりをする子どもたち(こども防災リーダー養成講座)

1 特集 居場所づくり「子どもの力を信じて」 特定非営利活動法人 ハートフレンド

3 大阪でこれからの「こども食堂」「地域食堂」を考える

4 「ボランティア・市民活動はどこへゆく」 一般社団法人ボランティアセンター支援機構おさか 連続講座

7 ふたりでかける自己ベストへの道 視覚障害者マラソン練習会 長居わーわーず

9 情報マーケット ボランティア募集、イベント・セミナー・講座情報、助成金などの情報

13 海外から日本へ 大阪の高校に学ぶ若者たち vol.17

大阪の街で、90年。これからも、皆さまとともに。



信頼で地域とつながる
大阪シティ信用金庫

本店 〒541-0041 大阪府中央区北浜2-5-4 TEL(06)6201-2881(代表)

大阪市内全24区に店舗を有する唯一の地域金融機関です。

平成29年12月1日現在

24区ボランティア・市民活動センター/ボランティアビューロー一覧

ボランティア活動に関するご相談をお気軽にお寄せください。

名称	所在地	電話(06)	FAX(06)
北区ボランティア・市民活動センター	北区神山町15-11	6313-5566	6313-2921
都島区ボランティア・市民活動センター	都島区都島本通3-12-31	6929-9500	6929-9504
福島区ボランティア・市民活動センター	福島区海老江6-2-22	6454-4553	6454-6331
此花区ボランティア・市民活動センター	此花区伝法3-2-27	6462-1224	6462-1984
中央区ボランティア・市民活動センター	中央区上本町西2-5-25	6763-8139	6763-8151
西区ボランティア・市民活動センター	西区新町4-5-14	6539-8075	6539-8073
港区ボランティア・市民活動センター	港区弁天2-15-1	6575-1212	6575-1025
大正区ボランティア・市民活動センター	大正区小林西1-14-3	6555-7575	6555-0687
天王寺区ボランティア・市民活動センター	天王寺区六万体町5-26	6774-3377	6774-3399
浪速区ボランティア・市民活動センター	浪速区難波中3-8-8	6636-6027	6636-6028
西淀川区ボランティア・市民活動センター	西淀川区千舟2-7-7	6478-2941	6478-2945
淀川区ボランティア・市民活動センター	淀川区三国本町2-14-3	6394-2900	6394-2978
東淀川区ボランティア・市民活動センター	東淀川区菅原4-4-37	6370-1630	6370-7330
東成区ボランティア・市民活動センター	東成区大今里南3-11-2	6977-6336	6977-6339
生野区ボランティア・市民活動センター	生野区勝山北3-13-20	6712-3101	6712-3001
旭区ボランティア・市民活動センター	旭区高殿6-16-1	6957-2200	6957-7282
城東区ボランティア・市民活動センター	城東区中央2-11-16	6936-1153	6936-1154
鶴見区ボランティアビューロー	鶴見区諸口5-浜6-12	6913-7070	6913-7676
あべのボランティア活動センター	阿倍野区帝塚山1-3-8	6628-3434	6628-9393
住之江区ボランティアビューロー	住之江区御崎4-6-10	6686-2234	6686-0400
住吉区ボランティア・市民活動センター	住吉区浅香1-8-47	6607-8181	6692-8813
東住吉区ボランティア・市民活動センター	東住吉区田辺2-10-18	6628-2020	6622-8973
平野区ボランティア・市民活動センター	平野区平野東2-1-30	6795-2200	6795-2929
西成区ボランティア・市民活動センター	西成区岸里1-5-20	6656-0080	6656-0083

特定非営利活動法人 ハートフレンド

小学校での泊避難所体験。地震のメカニズムを学び、炊き出しの味噌汁とおにぎりを食べ、夜は段ボール3枚と毛布で眠ります。小学生が寝食を共にし、失敗しても笑いながら地域の大人との信頼関係を築いていく活動を紹介します。



荷物をみんなの前で発表する「荷物自慢大会」

荷物自慢大会

11月、大阪市立桑津小学校（東住吉区）の多目的室で4年生から6年生を対象に、第5回子ども防災リーダー養成講座が行われました。これは、子どもたちが非常食や寝床を用意し、新聞紙スリッパなど災害時に役に立つ知識を

学び、災害に備えるプログラムです。特定非営利活動法人ハートフレンドと桑津地域青少年指導員協議会、桑津小学校はごくみネットが主催し、子ども59人、地域役員など大人を合わせて約80人が参加しました。

1週間前の説明会で子どもたちに「持ち物は自由。災害の時に自分のため、人のためになるものを選んで持ってきてください」と同法人の代表理事徳谷章子さんは伝えていきます。毎年恒例の「荷物自慢大会」では、過去にエレキギ



代表理事 徳谷章子さん

ターをもってきたという6年生の男の子がいました。「避難所は悲しんでいる人が多い。僕は、ギターを習い始めたから弾いてあげたい」と普段は人前に立つことが苦手な彼が、みんなの前で堂々と「ゲゲゲの鬼太郎」を演奏し、拍手喝采を浴びました。1回目の参加で初級、2回目で中級、3回目は上級の修了証書を受け取ります。「夜は、ひそひそ話もできるし、リーダーになれる。おもしろそう」とワクワク・ドキドキ感が子どもたちを惹きつけます。

中学生防災ジュニア・リーダークラブ始動

この講座を受講した小学生が、中学生になり、中学生防災ジュニア・リーダークラブとして活

動をしています。彼らはプログラムの骨組みを考え、当日の運営に関わりました。「寝床づくりで、ゆっくり考える時間をとりたい。少しでも避難所で快適に過ごせるようにみんなで話したい」とメンバーから提案がありました。避難所には、赤ちゃん、高齢者、病気の人がいます。どうやって寝ると居心地がよいか意見交換するワークショップは中学生が進行役を務めました。「自分で考えて、創造力を働かせなければ、命は守れません」と徳谷さん。大人が教え込まず、気づきを学ぶことを大切にしてきました。

ハートフレンドの活動の根拠

ハートフレンドでは、乳幼児親子の「つどい広場」、小学生が振り返り学習ができる「てらこや」、シニア向けの講座「おとなのてらこや」、児童デイサービスなどさまざまな事業をしています。

徳谷さんは、子どもの頃、場面緘黙症^{（場面緘黙）}で小学校の6年間、人前でも母は「なんでしゃべられへんの」

と言わず、家に帰って学校で習ったことを話す。「偉いな」とほめてくれました。それが救いでした。結婚し、3人の子もたちの子育てに奮闘していたある日、育児不安からうつ病で倒れました。

1年たつてやっと外に出られるようになったとき、友人から「子ども会を一緒にしない？」と声をかけてもらいました。友だちができるかもと36歳で子ども会の活動に参加しました。

そこでの経験から学ぶことも多かったのですが、次第に子ども会に来ていない子どもにも目を向けなくてはと考え始めました。自分がそうであったように、誰にもほめられない子はしんどい。一度でいいから、頭を撫でてもらえたら嬉しかったなあという思いが根底にありました。

2003（平成15）年に桑津子ども会が中心になり、東住吉区の仮設消防署跡を「子どもの居場所にしてほしい」と嘆願運動をしました。桑津連合振興町の賛同があり、行政の理解を得て「桑津子どもの家ハートフレンド」として開設しました。09年からは、子ども清掃・防犯マップ、公園探検マップ、緊急カードづくりをしました。そして13年、「避難所を想定した防災の学習プログラムをやろう」と桑津連合振興町会に相談を持ちかけると、防災に強いまちづくりを考えていた連合会長は大賛成。桑津

地域青少年指導員協議会から「一緒にやろう」と声がかかり第1回目の講座を開始しました。今年から実行委員会の形をとり地域の各種団体が参加。地域の協力が支えられています。

子どもたちに大切な3つの間*

「うちの自慢は、地域のシニア世代が活動を支えてくれていることです。てらこやの先生は、最年長82歳。子どもたちが力をつけても、大人がバラバラに活動していると育むことができない。長い目で子どもの成長を見守り、共に喜ぶことができる幸せ感はずい」と徳谷さん。ハートフレンドが、ずっと大切にしているのは、自然に自信がつく居場所。

ささやかなことを本気でほめてもらえる。自分の話を聞いてくれる。失敗しても笑ってくれる。いつも待っていてくれる。泣いたら背中をなでられる。そういう大人（重要な他者が映像として浮かばないと子どもは来にくいのです。そして、子どもの成長には、友だちとの会話やこすれ合う時間、空間、仲間の3つの間が不可欠です。子どもが自分の足で立ち、「泣いてもまた笑える力を育んでいきます」。

※1家庭などでは話すことができるのに、社会不安のために、学校など特定の場面・状況では話すことができなくなる症状が続く状態



特定非営利活動法人
ハートフレンド
〒546-0041 東住吉区桑津5-13-48
TEL/FAX.06-6719-6055
E-mail info@heart-fd.jp
HP http://heart-fd.jp

プログラム

第5回子ども防災リーダー養成講座 (11月4、5日)

- 1日目**
- 14:00 リーダー集合
 - 16:00 開会式
 - 16:10 荷物自慢大会
 - 16:50 地震のメカニズム
 - 17:20 消防署からの講義
 - 18:00 夕食～非常食自慢
 - 19:00 新聞紙スリッパづくり
 - 20:00 ランタンづくり
 - 20:00 夜食タイム
 - 20:30 寝床づくりワークショップ
 - 21:00 寝床ワーク
 - 作業
 - 就寝
- 2日目**
- 6:00 起床
 - 7:00 朝食
 - 8:00 防災クイズゲーム
 - 9:00 気づき記入
 - 10:00 発表
 - 10:40 修了式
 - 11:00 解散

平成30年2月子ども防災フォーラム参加者募集！
詳しくは、P11参照

「食でつながるフェスタ
おおさか」に160人

11月18日「食でつながるフェスタおおさか」が大阪市中央体育館で開催され、子ども食堂や地域食堂に取組む団体や個人など約160人が参加しました。「食」を通じた居場所づくりや子ども支援に関心を持つ人が増える一方、互いに出会いの機会が少なく情報が不足している現状から、同フェスタでは3つの分科会を設けて食に関連する活動を紹介。全体会では、課題や今後の方向性を共有しました。



加美北地域では「カラオケサロン」で得た財源で「みんなの食堂」を運営

各分科会で大阪市内の
取組みを紹介

第1分科会では「子ども食堂がめざす地域の居場所」をテーマに事例を紹介、大阪市内からは西成区で「にしなり☆子ども食堂」を主宰する川辺康子さんが、学生ボランティアの関わりやフードバンク事業との連携、「食」を介して子育てや子ども食堂を応援している人同士が「つながる」「子ども食堂ネットワーク関西」の取組みなどを報告しました。

第2分科会では「社会福祉施設における居場所づくり」として、福祉施設を拠点に行われている活動について報告。東成区の母子生活支援施設「東さくら園」では、2014年（平成26）年4月から退所した子どもたちを中心に学習サポートを開始。親子で抱える課題の複雑性や深刻性、入所期間が3年未満と短縮傾向にあることから、退所後も民生・児童委員とともに無料の学習塾を開催し、子どもの居場所づくりと家庭への支援を続けています。鶴見区の「特別養護老人ホームらんまん鶴見」では、区内で活動する「mamaお



全体会では各分科会の様子が報告されました

助け隊和み」が世代を限定しない地域食堂を開催。働くお母さんの居場所の必要性から始めた活動が、福祉施設の協力で継続されています。西成区にある「社会福祉法人大阪自強館」は、同区今宮地域ですまいる食堂を開催しています。地域ニーズから区全体での開設の気運も高まり、法人としてそれに応える形でスタート。今後は、社会福祉法人の専門性を活かし、食事提供に終わらせることなく、子どもとその親への支援の糸口をつかみ、支援のネットワーク化も見据えています。

全体会では、脇坂博史さん（大阪ボランティア・市民活動センター副所長）がコーディネーターを務め、各分科会の代表者と大阪市役所の担当者、本フェスタの事務局を担当した一般社団法人全国食支援活動協力会の平野覚治さんらとパネルディスカッションを行い、「食」を通じた活動が、子どもや大人の居場所づくりに繋がり、孤立を防ぐ大きな手立となることを確認しました。

居場所としての
「子ども食堂」「地域食堂」

マに、平野区加美北社会福祉協議会が運営する「みんなの加美北食堂」を紹介。西野義一会長は「地域では高齢者を対象とした活動が多かったが、子どもたちのために何か活動をしなければならぬ」と思っていたところ、平野区社会福祉協議会からの協力もあり食堂を始めたと立ち上げの背景を話しました。また地域福祉活動コーディネーターの山口政野さんは「この食堂は地域住民なら誰でも参加OK。みんなで食事をする楽しさや団欒を知ってほしい」と続けました。

「ボランティア・市民活動はどこへゆく」

一般社団法人ボランティアセンター支援機構おおさか 連続講座を開催



第1講の参加者と代表理事の上野谷加代子さん(前列左から3番目)

一般社団法人ボランティアセンター支援機構おおさかは、ボランティア活動の促進に関する研修や協働事業等を行い、ボランティアセンターの向上・発展に寄与することを目的に、2014(平成26)年5月に上野谷加代子さん(同志社大学教授)を代表理事として設立しました。今年度は、ボランティア・市民活動の推進を図る社会福祉協議会などの中間支援団体や社会福祉施設、地域活動を推進する団体や個人を対象に、全8回の連続講座を開催しています。

第1講は、同法人の呼びかけ人で顧問でもある岡本榮一さん(ボランティアリズム研究所所長)が、戦後の社会運動とボランティア活動の歴史や、ボランティア活動に関

わる「ボランティアリズム」の内容などについて、自身の経験や活動を交えて話しました。「ボランティア活動は一人で始めるもの、しかし共に活動する仲間が必要で、その時にボランティアリズムを理解し、活動の原点に立ち返ることが大切」。また「僕は僕、君は君、されど仲よき」とボランティアは相互に独立性をもちながら協働していくことが必要と続けました。



岡本榮一さん

第2講では、上野谷加代子さんと、同じく同法人の理事である新崎国広さん(大阪教育大学教授)の二人から、それぞれ厚生労働省や文部科学省の地域福祉や福祉教育等に関する政策動向についての講義が、第3講では、石田易司さん(同法人理事・桃山学院大学教授)から、ボランティア活動とモチベーションについての講義がありました。

同法人では、今後も、より広範なボランティア・市民活動の推進と、それを支援する中間支援団体や社会福祉法人等の職員、活動者を対象に講座を展開していく予定です。

今後の連続講座の予定

	日時	テーマ	講演者
5	平成30年 1月13日(土)	ボランティア・NPO・市民活動・企業の社会 貢献活動/総ざらえ・本質を探る	田尻佳史さん (日本NPOセンター特任理事)
6	2月10日(土)	地域福祉の拠点としての施設	新崎国広さん (大阪教育大学教授)
7	3月3日(土)	障害当事者と地域活動・芸術活動	北岡賢剛さん (社会福祉法人グロー理事長)
8	3月17日(土)	まとめ/ ボランティア活動・市民活動の展望	ボランティアセンター支援機構おおさか コーディネーター:石田易司さん

時間: 全回午後2時~5時 (講義90分、質疑応答30分、交流60分)

参加費: 1,500円(各回)

会場: 中央区社会福祉協議会(中央区上本町西2-5-25)

申込先: 一般社団法人ボランティアセンター支援機構おおさか(大阪市ボランティア・市民活動センター 浜辺まで)
TEL 06-6765-4041 FAX 06-6765-5618

第18回
企業・市民協働セミナー

未来につなげよう 防災・減災!!

～忘れへんで あの日あの時～

中央区フィランソロピー懇談会(CFK)では東日本大震災以降、防災を自分のこととして考え、また大阪から元気を届けたいとの思いでチャリティーフェスティバルを開催してきました。これまで様々な世代の人が参加し、開催を重ねるとに人と人のつながりが少しずつ広がってきました。このつながりを大切に、震災を忘れないというメッセージを発信し続け、さらに若い世代の人たちと一緒に防災・減災を考える機会として今年も開催します。

日時 平成30年1月20日(土) 午前11時30分～午後3時

場所 中央区民センター
(中央区久太郎町1-2-27)



にぎやかなステージ発表

- 内容**
- 「防災士」坂本紫音さん(14歳)、出水真輝さん(10歳)による講演
 - 中・高校生による詩の朗読(震災関連詩集より)
 - お楽しみ抽選会
 - 各種団体によるパフォーマンス(あまゆーず、他)
 - 東北・熊本地域の物産品の販売(大阪市立淀商業高校、他)
 - 模擬店(パン、クッキー等)など
- *内容等は変更になる場合がありますので、ご了承ください。



主催 中央区フィランソロピー懇談会(CFK)
中央区ボランティア・市民活動センター

協力 年中夢求隊(中央区ボランティア・市民活動センター登録グループ)

【お問合せ】
中央区社会福祉協議会 中央区ボランティア・市民活動センター
TEL 06-6763-8139(担当:藤井)

大阪市市民活動総合ポータルサイト

市民活動を応援するサイトです。

市民活動団体の情報や活動に役立つ資源・助成金・講座情報などが盛りだくさん!

「ボランティア活動してみたい」「NPO やボランティア団体を知りたい」「団体運営に役立つ情報を知りたい」などお考えのみなさま、ぜひ一度覗いてみてください!



大阪の社会課題から市民活動を知る

大阪の社会課題をピックアップし、それらの解決に取り組んでいる市民活動団体を調べることができます。

大阪の市民活動を知る(個人向け)

ボランティア活動やイベントの情報、市民活動団体や社会貢献を行う企業を調べることができます。

市民活動お役立ち情報(団体向け)

団体の提供する資源(物品・ノウハウなど)や助成金情報、スキルアップ講座など、団体運営に役立つ情報を調べることができます。

市民活動のためのクリック募金

各協賛企業のバナーを1クリックで、あなたの代わりに協賛企業が寄附をします。

企業×市民活動 コラボのススメ

さまざまな理念や活動形態で、企業が取り組んでいる社会貢献活動を知ることができます。

イケてる! 市民活動☆ミニレポート

市民活動団体がつながって生まれたもの、活動してよかったこと...さまざまな「よかった!」事例を知ることができます。

交流会のお知らせ

大阪府域で行われている様々な「交流の場」の情報を知ることができます。

団体のみなさまへ

ポータルサイトに情報を掲載しませんか?

ポータルサイトに登録すると、自団体のボランティア募集やイベントの情報、自団体の持つノウハウ(講座、ワークショップなど)の情報を発信することができます。登録・掲載は無料です(※審査があります)ぜひご活用ください! ★問い合わせ P.14大阪市ボランティア・市民活動センター

大阪市市民活動
総合ポータルサイトへ



<http://kyodo-portal.city.osaka.jp/>

ときどき 記者 体験記 ⑦

情報誌COMVOのボランティア市民記者

ときどき 記者 仲西望



どんな人が取材して書いているの? ボランティアの素顔を知れば自分との共通点が見つかるかも。

普段は会社員をしています。都合がつく時だけ活動できるので、無理なく続けています。取材は楽しいですよ。普通に生活をしていると関わることはない人と出会ったり、興味深い活動の話の聞いたたり。話が盛り上がりすぎて困ることもあるぐらいです。記事だから文字制限が

あるので、何を書くべきか、どこを割愛するかでいつも悩みます。取材で知り合った人はみんな前向きで、パワフルで、とても元気をもらえます。だからあまりボランティアって意識はないですね。

ときどき 記者 を始めたきっかけは、偶然と気まぐれです。「何か楽しいイベント無いか」と思って、フリーペーパーを手にとり取って見ていたら、たまたま「ときどき 記者 よーせー講座」というページが目に入って、軽い気持ちで申し込んだときは、自分がまさか記事を書くことになるとは全く思っていませんでした。びっくりです。

これからも、細く長く楽しく活動していきます!



複数の「記者」で取材をすることもあります

視覚障害者マラソン練習会
長居わーわーず

雨降りの日曜日。長居公園（東住吉区）の周回コースを、しなやかに腕を振り颯爽と走るランナーの姿がありました。視覚障害者マラ



ブラインドランナーと伴走者は、「視覚障害」と「伴走」と書かれたカラフルなビブスを着用し、走り込みます

ソン練習会「長居わーわーず」は、第2、4日曜日に視覚障がいのあるランナー（以下、ブラインドランナー）と、晴眼者のランナー（以下、伴走者）の伴走練習会を行っています。始まりは、ひとりのブラインドランナーが、

「私と一緒に走ってくれないか」というメッセージをインターネットで発信したことでした。その声に応える形で関西から有志が集まり、1999（平成11）年3月に第1回目の練習会が行われました。現在、高校生から80歳を超える現役ランナーまで幅広い年代の約400人が登録しています。

定期練習会に加え、隔週で自由練習会を行い、希望者は、ほぼ毎週走れるように伴走者の人数を調整しています。多い時は30人以上のブラインドランナーが関西各地から集まり、まだま

だ伴走者が足りない状況です。「雨が降ったくらいでは休めません。今日休むと2週間以上も空いてしまうことになるから」とブラインドランナー。一番求めているのは、普段の練習相手です。伴走者は、一緒に走り切った時の達成感があり、苦しさ半分、喜び2倍。ジョギングやウォーキングを楽しんでいる人なら十分、伴走者として参加できます。

ブラインドランナーと伴走者を繋ぐ「きずな」



“きずな”と呼ばれる伴走ロープ

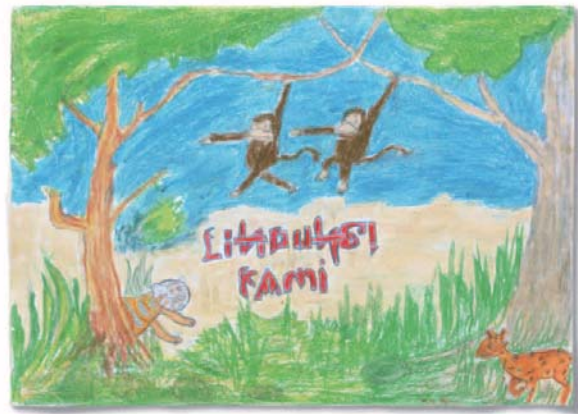
ブラインドランナーと伴走者は、長さ1mのロープを結んで輪にした「伴走ロープ」を握って走ります。伴走ロープを、弛ませたり、ピンと張ったりし、それぞれ

の好みに合わせて持ち方を覚え、スタート地点の混雑時は短く持つなど状況に応じて調整しています。伴走者は、方向や段差などを知らせ、ブラインドランナーが安全に走行できるように周囲の景色や状況を説明します。「まるでひとりですべて走っているような感覚で、気持ち良く走ってもらえることが究極の目標です」と伴走者で、日本ブラインドマラソン協会理事の中山敏郎さん。

高校生の時に、緑内障を発症し、20歳で両眼の視力を失ったという松本義和さんは、「当初は手引きで歩くだけで怖かった」と言います。道路の縁石に足がのって転倒する恐怖心と闘いながら、自己ベストを目指して走り続けています。「前の走者との距離を、音で感じています。前の人が転んだときに、巻き込まれないように5メートルほど広めに間隔をあけて走る必要があります」と耳で周囲の状況を感じとっています。実は、松本さんは、2000年シドニーパラリンピックの柔道100キロ級のメダリストです。

※伴走者、伴走者随時募集！詳しくはP9情報マーケット参照

森が戻ってきた。
鳥や虫や動物が戻ってきた。
みんなに笑顔が、戻ってきた。



再生プロジェクトを行っているバリヤン地区の小学校の児童から贈られた絵。「わたしたちを守って!」という動物たちのメッセージをこめて、描いてくれました。

インドネシア熱帯林の再生プロジェクト

きっかけは、私たちが毎日使っている紙の原料となる木材を少しでも地球に返したいという思い。たくさん生き物が暮らす森を取り戻すことで地球温暖化を防ぎ、生物多様性を守ること。そして、地元の人々の生活を助けること。地元の子どもの明るい笑顔を力にして私たちは、これからも、未来を育む活動をつづけていきます。



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上火災保険株式会社 www.ms-ins.com

「保険会社は、紙を多く使う仕事だから木を地球に返そう」と始めた運動でした。だけど

そんな単純な話ではなかった。インドネシア・バリヤンで知ったことは「森林は地元の人たちが、生きるために仕方なく木を切っていたという事実」。植木に加え、果樹も育て果実を農民の新しい収入源にするというプロジェクトをはじめよう。人と森、生きものが共に生きる場所を取り戻そう。「植えた木の本数」「面積」といった数値だけでは本当の意味で熱帯林は再生しません。地域の人々と手を取り合って考えた時間が、明日の地球環境を再生させる。三井住友海上は、まだまだ勉強中です。

三井住友海上は、生物多様性の保全活動をすすめています。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

アンケートにご協力ください!

COMVOではよりよい誌面づくりのため、読者の皆さんに毎回アンケートのご協力をお願いしています。あなたのご意見や感想をお聞かせください。

応募方法

- ①あなたの氏名、郵便番号、住所、性別、職業、年齢、電話番号、本誌入手先、読者歴をお書きください。
- ②下記の1～6の質問の回答をお書きください。

- あなたのボランティア活動歴を教えてください。
アなし イ1年未満 ウ1～4年 エ5～9年 オ10年以上
- あると答えた人は活動内容を覚えている範囲で教えてください。
- これまでに情報誌 COMVO を見て、ボランティア活動をしたことはありますか。
アある イなし ウまだ迷っている(その理由も教えてください)
- 今月号で良かった記事は何ページですか?その理由も教えてください。
- 本誌で取り上げてほしいテーマや活動、団体、行事、イベントなどがあれば教えてください。
- その他、ご意見、ご感想を記入ください。

③ ①、②の必要事項をFAXかハガキに記入のうえ、当センターまでお送りください。
※パソコン・スマホからも回答できます。

<https://ws.formzu.net/dist/S38892286/>



大阪市ボランティア・市民活動センター
「読者アンケート 情報誌COMVO223号係」まで
(住所は下記参照)

※締め切り 2018年1月10日(消印有効)
※当選者の発表は記念品の発送をもってかえさせていただきます。
※お預かりした個人情報は、本誌の内容向上と、記念品送付の目的のみに使用します。また、募集したテーマについてご意見を誌面に掲載する場合がありますが、個人を特定される記載は行いません。

大阪シティ信用金庫
社会貢献活動トピックス

「人にやさしい店舗設計」
加島支店が新築オープン

当金庫は2017(平成29)年9月、加島支店を新築オープンしました。新店舗は、開放的な吹き抜けのロビーに、木目調の落ち着いたデザインとしました。また、「人にやさしい店舗設計」をコンセプトに、設備・機能面を充実させるとともに、地域の皆さまが利用していただきやすい、安心・安全な店舗づくりで、お客さまとのコミュニケーションの充実を図ります。



テープカットの様子

主な設備・機能

- (1) 全自動貸金庫(車椅子の方にもご利用いただきやすい仕様)
- (2) 待合席に優先座席、座って書ける記帳台、多目的トイレ、点字ブロック、スロープ
- (3) 全館LED照明
- (4) キッズコーナーやギャラリースペース



優先座席 座って書ける記帳台

～海外から日本へ～
大阪の高校に学ぶ
若者たち Vol.17
season 2

プロフィール
グエン ティ ゴックミン
(ベトナム)
府立高校2年生
好きなこと
メイク



海外から来日、帰国して学ぶ高校生。複眼的な視野をもつ彼らが毎号1人ずつ登場します。
(協力: NPO法人 おおさかこども多文化センター)

みなさん、こんにちは、ミンです! 小学校4年生の時にベトナムから日本にやって来ました。私はお化粧をするのが大好きです。毎日インターネットや雑誌を見ながら、いろいろなメイクについて研究しています。日本では、季節に合わせて流行るアイシャドウやチーク、リップの色が変わって、非常に興味深いです。この間、日本語の授業で、「日本の伝統色」について習いました。桜(くれない)、蘇芳(すおう)、鶯色(うぐいすいろ)、藍(あい)、瑠璃(るり)、菖蒲(あやめ)、若紫(わかむらさき)と名前も

50000 cuteです。私は、これらの色を組み合わせて、どんなグラデーションができるのか、いつも考えています。ベトナムにはない色もあって、色使い(配色といます)がなんだかとても新鮮です。漢字は難しいけれど、日本の伝統色の名前を全部覚えてメイクの勉強に活かしたいです。大好きなメイクに関係する日本語をたくさん覚えたいです。毎日勉強するのが楽しいです。みなさん、私と一緒に日本語を勉強しませんか?

ボランティア・市民活動情報誌
「COMVO」へ広告募集!

赤枠が本文1/5ページサイズと同じです

掲載箇所	料金(税込)	版下サイズ(mm)
表4 1ページ	234,000円	240x170
表4 1/2ページ	127,500円	117x170
本文 1ページ	156,000円	257x182
本文 1/2ページ	85,000円	117x170
本文 1/5ページ	38,000円	48x162

※原稿は原寸大の完全原稿(ポジ・MOデータ)で入稿ください。それ以外は別途製版料が必要です。
※掲載ページの指定はできません。
※内容により掲載をお断りする場合があります。

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪ボランティア・市民活動センター
Osaka City Voluntary Action Center
所在地 / 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター1F
TEL / 06-6765-4041 FAX / 06-6765-5618
E-mail / ocvic@osakacity-vnet.or.jp http://www.osakacity-vnet.or.jp

●開館時間: 午前9時30分～午後8時30分(月・水・金) 午前9時30分～午後5時(火・木・土)
●休館日: 日・祝・国民の休日・年末年始
●発行日: 2017年12月15日(8月と1月を除く毎月15日発行)
●発行部数: 40,000部 ●制作協力: 商工印刷株式会社
●本誌は大阪府共同募金会の助成をいただいています

お知らせ
情報誌COMVOは年10回の発行です。
次回は平成30年2月15日発行になります。
(平成30年1月15日は休刊です)COMVO編集室

ウェブサイトからもチェック可能!
<http://comvo.lekumo.biz>

大阪市営地下鉄(新大阪・淀屋橋・本町・なんば・天王寺・なかもず・大日・太子橋今市・天神橋筋六丁目・東梅田・天満橋・谷町九丁目・喜連瓜破・住之江公園・大阪港・堺筋本町・野田阪神・日本橋・天下茶屋・大正・浦生四丁目・ポートタウン東 各駅)、阪神電車(梅田駅)、大阪市サービスセンター(梅田・難波・天王寺)、各区在宅サービスセンター(区社協)、大阪府役所・区役所、区民センター、フレオ大阪、大阪市内の図書館、大阪市立総合生涯学習センター・市民学習センター各館、大阪市商店会総連盟加盟商店街、大阪シティ信用金庫市内の店舗など

突撃取材のコーナー Season II
福祉ボランティア活動がより充実したものになるように、平成28年度、大阪ボランティア活動振興基金を助成された団体を紹介します。

白髪になってからが人生オモシロイ!!
NPO法人 WhiteNet

住み慣れた地域や自宅で暮らしたい。そんな高齢者の思いを受け、白木裕之さんは、2011(平成23)年、介護療養型医療施設や在宅ケアなどの勤務経験を活かし、仲間と住吉区にNPO法人WhiteNet(ホワイトネット)を創設しました。

「ターミナルケア(※で11年間、ボランティア相談員として7年間、介護業務に携わりました。そこで、人生最後に白木さんと会えてよかったと言われました。たくさんの人を看取り、いい人生だったなあと考えてもらえらるには、どうしたらいいのか?と考えると、当時を思い出します。高齢期こそ人生で一番輝けるとき、白髪になってからが人生オモシロイ!!」をモットーに「高齢者が社会と繋がることで、幸福感を得られる。要介護でも社会貢献活動できる」という仕組みをつくりたい」と言います。

昨年からボランティア活動を通じて、地域の若者と高齢者を繋ぐため、区内のボランティア情報を掲載したサイト「Happiness」を開設。ボランティア活動したい人を対象に、定期的に靴下のハギシを利用した「指編み」のワークショップを行っています。参加者はマットやカゴなど作り方を覚え、高

高齢者施設を訪問し、指編みを利用者にレクチャーします。最終的には、高齢者自身が編んだ作品を社会貢献活動につなげていきます。8月には初めて、作品をカンボジアの首都プノンペンにある「くま狐児院」へ寄贈しました。現地からは、お礼に子どもたちの笑顔の写真が届き、交流が始まっています。

ときどき、記者・古川繁美

NPO法人WhiteNet
〒558-0042 住吉区殿辻2-3-9-2B アメニティナル
TEL 06-7162-7060 E-mail whitenet@osaka.zaq.jp
HP <https://www.whitenet-npo.org/>
Happiness住吉 <http://住吉区ボランティア.com/>

指編みワークショップに集まったボランティアと白木さん(左から3番目)
※終末期の医療および看護のこと